

Vol.2



シャ○ラの搾精農場

シャ○ラの求婚に根負けしてはや3日
昼夜を問わず彼女の自室で
子作りに励んでいた

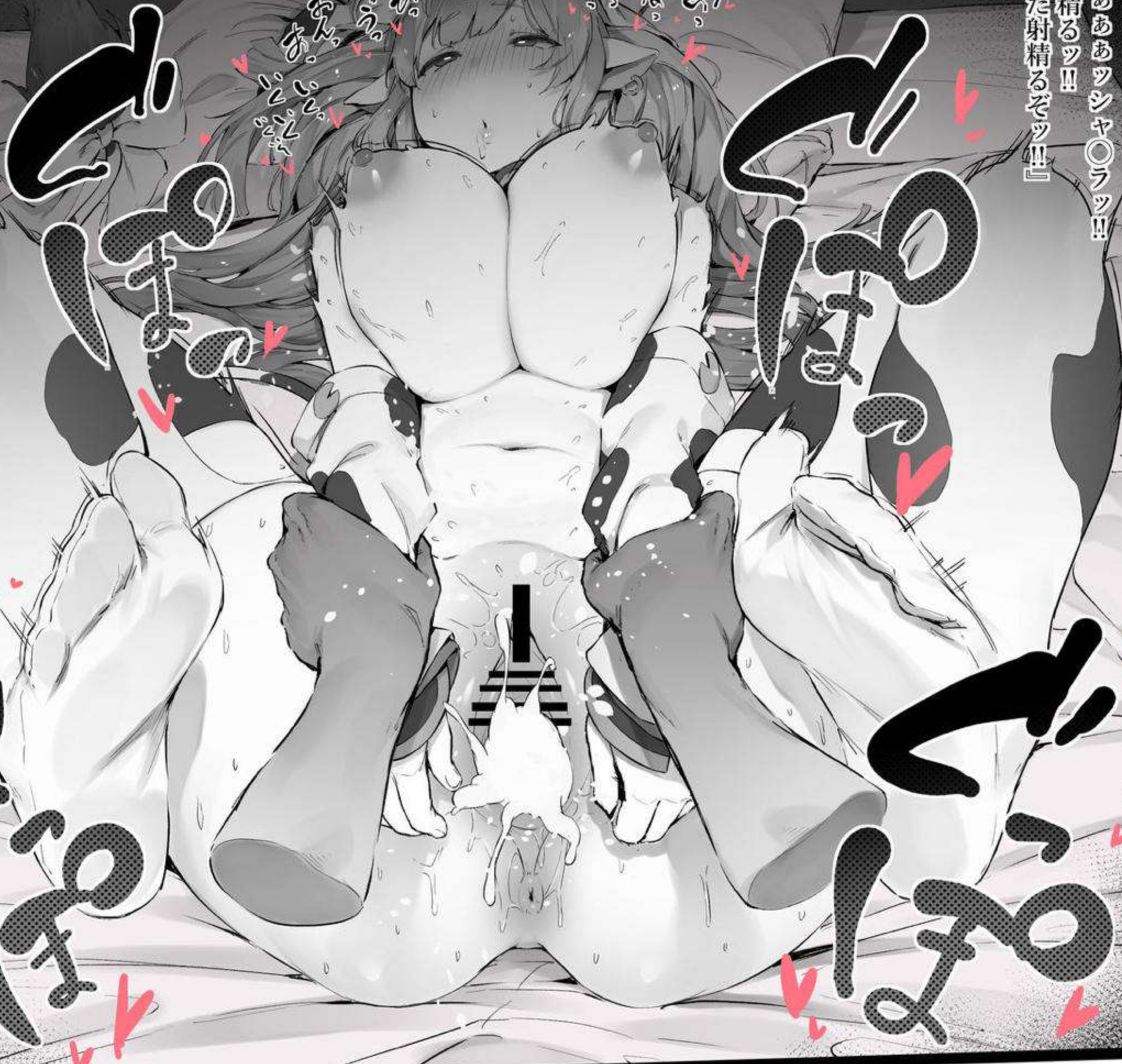


あああ...
かああ...
あああ...

抜こうとしても嫌がるので
かれこれ2日はいれたままになっている

『ああああッシヤ○ラッ!!
射精るッ!!
また射精るぞッ!!』

『一番おくにッ!!
シヤ○ラの卵に
ミルク飲ませてやるからなッ!!』



『ああああッ
染み込めえええッ!!』

その後も互いの性器をぶつけあい
獣のような交尾を繰り返していた



それからー

『ふたりともおはよう〜
今日も子作りがんばってるわね♥』

『あ、おばさん
おはようございますっ』

『ご飯ここに置いておくから
後で食べてね♥』

ガチャ

『絶対、絶対子供つくくるもんっ♥』

『そのためならあたし
頑張るからっ♥』

はあ... はあ...
はあ... はあ...
はあ... はあ...

『あらあらシヤ○ラちゃん
そんなお掃除じゃだめよ?』

『ふえ? どうしたらいいの?』

『ママが教えてあげるから
変わってみて♥』

『お、おばさん...?』

『んっ♥とっても濃い♥
すごく臭くて
おいしそうなにおいがするわあ♥』

『久しぶりの生ちゃんほお
いただきます♥』

じゅっ... ちゅっ... あっ?

シフーっ♥
シフーっ♥

ちゅっ♥
ちゅっ♥

ちゅっ♥
ちゅっ♥

ア
ア
ア

「ん〜♥ やっぱり搾りたての
ミルクは最高ね♥」

「ママッ あ、あたしの
王子様なんだよっ!!
ひとりじめしないでっ!!」

「おちんちんも
ふにゃふにゃに
なっちゃったし」

「あらシヤ○ラちゃん
そこは大丈夫よ♥」

「前立腺をゆ〜っくり
こねこね、こねこね
してあげると……♥」

「アッあひッ!!
あッだッだめですって!!
ああああああ!!」

「す〜おい♥
王子様、これでまたいっばい
エッチ♥ できるね♥」

「明日も明後日も
いっばい、いっばい
セックス三昧♥」

「シヤ○ラちゃんはまた
慣れないことも多いから
ママが教えてあげるわね♥」

「団長さんにしてほしい
事があったらなんでも言ってね
なんでもしてあげるから♥」

シヤ○ラ家との闘いは
まだまだこれからだ!!











